

2014-15 年度 R I のテーマ「ロータリーに輝きを」
R I 会長 ゲイリー・C. K. ホアン (Light Up Rotary)

八戸南ロータリークラブ会報



●ガバナー 工藤 武重 ●会長 榎 清蔵 ●幹事 伊藤 斉 ●コミュニケーション委員長 米内 安芸

ホームページ : <http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/>

Email : hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

RI 第 2830 地区ホームページ : <http://www.rotary-aomori.org/2014/>

第 1918 回例会記録《社会奉仕委員会担当例会》

2015 年 2 月 12 日 (木) 点鐘 12:30

レポート No. 1351

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか



第 1918 回例会要旨

- ・会長要件
- ・幹事報告
- ・各委員会報告
《出席・親睦・職業奉仕》
- ・社会奉仕



熊谷 S A A



《出席報告》桜田委員長

正会員数 44 名。本日の出席は免除会員 5 名を含む 26 名。出席率 69% です。前々会の例会は、メーキャップなし、出席率 67% でした。

《会長要件》榎会長



先週の土曜日、第 21 回目の「よろず相談」が無事に終わりました。コミュニケーション委員長の米内さんが新聞に早く掲載してもらったおかげで、今回は 14 名の相談者がありました。相談員の皆様、吉田職業奉仕委員長さん、ご苦労様でした。これからも奉仕の一環として続けていくことになると思います。

今日は皆さんお気づきの方もいらっしゃると思いますが、懐かしい山村さんがおいでになっています。再々入会と言う事ですが、前回体調を崩されての退会でしたが、療養して体調を整えて何が何でも 40 周年の年度内に戻って皆さんと一緒に祝いに参加したいと言う強い希望がありまして、今回入会の運びとなりました。何よりも病気が良くなって入会出来たこと、本当におめでとうございました。これからも皆さんと末永くお付き合いをお願いします。

《入会式》



《入会挨拶》山村会員

皆さんしばらくでございました。榎会長さんから心温かい入会のお誘いがございまして何とか再入会する

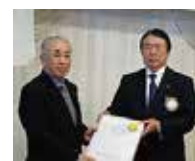


事が出来ました。会長並びに皆さんに心から感謝申し上げます。私が八戸南ロータリークラブに入会したのは昭和 53 年 1 月 23 日でございました。その時の会長さんは第三代の村木哲夫さんでした。今年は八戸南ロータリークラブの 40 周年と言う事でこの大事な年度に入会できましたこと、大変光栄に思っています。皆様にもこれからもご支援ご指導をお願い申し上げます。八戸南ロータリークラブの発展の為に寄与して参りたいと思いますので、山村をよろしくお願い申し上げます。

《本人誕生日》



慶徳会員



石橋会員



赤穂会員



伊藤会員

《幹事報告》伊藤幹事

・定例理事役員会のご報告です。

3 月のプログラムについて、3 月 5 日 (木) 規定審議・クラブ細則委員会担当例会、黒田会員から R I についてのお話をして頂く予定です。3 月 12 日 (木) 会員卓話例会、会員お二人の卓話を予定しています。3 月 19 日 (木) 任意休会、3 月 26 日 (木) 親睦活動委員会担当例会、パークホテルの従業員の方にお話をして頂く予定です。



40周年の進捗状況について、2月19日の実行委員会で大筋が決まる予定ですので2月26日の創立記念準備例会で会員の皆様にお伝えします。

・鈴木ガバナーエレクトより絵葉書が届いています。(手紙読み上げ) 次年度のテーマは「世界へのプレゼントになろう」です。

・40周年記念講演のメラニーさんのチラシが出来ました。

・サンパウロ国際大会の案内が届いています。

・ロータリー囲碁同好会より、日・韓・台対抗戦の案内が届いています。

・レターボックスに「抜萃のつづり」が入っています。今年も頂戴しました。

《ニコニコボックス》平光委員長

榊会長：長嶺社会奉仕委員長今日は宜しくお願いします。

山村さん元気になっての再入会おめでとございます。

熊谷会員：山村雅雄さんようこそ、お久し振りです！！

黒田会員：三浦さん写真ありがとうございます。

小原会員：先日のよろず相談、お疲れ様でした。三浦晃さん、写真ありがとうございます。

橋本会員：よろず相談おつかれ様でした。

鈴木会員：よろず相談、ご苦労様でした。不相応ですが、八戸市合唱連盟理事長に就任しました。

米内会員：よろず相談おつかれさまでした。

清川会員：よろず相談おつかれさまでした。

吉田会員：よろず相談ありがとうございます。

平光会員：よろず相談おつかれさまでした。三浦さん写真ありがとうございます。

山村会員：再入会でできました。

本人誕生日：慶徳会員・石橋会員・赤穂会員・伊藤会員



《よろず相談報告》吉田委員長

先週の土曜日、2月7日にワシントンホテルに於いて第21回のよろず相談を盛会のうちに終えることが出来ました。皆様のご協力本当に有難うございました。今回は14名の八戸市民の方から、法律、保険、医療、リフォームなどの相談があり、相談を終えた市民の方々が笑顔でスッキリしたと言って帰って行かれたのが印象的でした。今日のデーリー東北にも金田会員が相談に真摯に耳を傾ける姿が掲載されていまして、皆様ご覧になってください。どうもありがとうございました。

《社会奉仕委員会》長嶺委員長

今回よろず相談を第21回と言う事で行いましたが、皆さんはよろず相談が社会奉仕なのか、職業奉仕なのかと言う事を考えたことがあるでしょうか、私はいつも迷うのですが、職業奉仕であり社会奉仕であり両方であると言う人や、これは社会奉仕だ、いや職業奉仕だと言う人



もいると思いますが、色々な考え方があると思います。今日は社会奉仕委員会の担当例会と言う事で書き物を少し調べてみたのですが、今年度の「地区要覧」の中にガバナーの地区運営方針と言うものが載っており、工藤ガバナーが、今年度は職業奉仕を頭に置いて運営にあたりたい、と言う事で、職業奉仕とは「例えば弁護士が無料法律相談を行う事などが」職業奉仕“だと言う考え方があります。しかしこれは、職業を通じた社会奉仕であって、元来の意味での職業奉仕ではありません。」と書いてあります。南クラブのよろず相談をターゲットにした訳ではないと思いますが、例えば弁護士が無料法律相談を行う事は、職業奉仕ではなく社会奉仕だと言う事を言っています。では、社会奉仕と職業奉仕とはどこが違うのかと言う話になりますが、2013年の手続要覧の63Pから奉仕部門という第7章があります。この奉仕部門の中に職業奉仕の定義のようなものが載っています。「職業奉仕と言うのはあらゆる職業に携わる中で、奉仕の理念を実践して行くと言う目的を持つものである」と書いてあります。要は職業奉仕と言うのは職業に携わる中で、奉仕の理念を実践していくものだというように規定しています。社会奉仕はどうかと言うと「クラブの所在地又は行政区域内に住む人々の生活の質を高める為に会員が行う様々な取組」が社会奉仕だと言うように書いてあり定義になっています。ガバナーが言われるようにわれわれの職業を通じて、無料で地域の相談に乗ると言うのは社会奉仕の範疇でとらえていいのではないかとするのが私の理解です。これはあくまで私が手続要覧を読んでの理解の中でそう思っているだけで、皆さんはまた違う考え方があるかもしれません、私はこれを読んで、よろず相談と言うのは職業奉仕ではなく社会奉仕ではないかとの結論に達した訳です。職業奉仕の中では、ロータリアンの行動規範と言うのが手続要覧の中にありまして「ロータリアンは以下のように行動する」職業の経験と才能をロータリーでの奉仕に生かすとか、地域社会の生活の質を高める為自らの職業的才能を捧げるとか書いてありますが、こういうロータリーの職業奉仕に係る行動規範を見ると社会奉仕の中でも職業奉仕に似通った言い回しがあります。私は英語の原文は読めないのですが日本語に翻訳されたものを見る限りにおいては職業奉仕と社会奉仕は似たような表現になっていて紛らわしいと思います。皆様のお手元に印刷物を配布していますが、これは手続要覧に書いてある社会奉仕に関する項目です。社会奉仕とは先ほども言いましたが、クラブの所在する地域とか行政区域内に住む人々の生活の質を高める為に会員が行う様々な取り組みと言う定義ですが、これに関しては社会奉仕に関する声明と言うのがあります。この声明の前に規定審議での23-34という有名な規定もありますが、1992年の規定審議会で社会奉仕についての次の声明を採択したと言う事です。今回、2013年版では65Pから書いてあります。1992年規定審議は、ロータリーの社会奉仕と言うのはロータリアンひとりひとりの個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理念を適用すると言う事が書いてありまして、奉仕の理念と言うのは第一義的には「超我の奉仕」と言われるもので

すが、内容とすれば利己的欲求は最小限にとどめて最大利他の為に務めると言う事です。この奉仕の理想を適用するにあたって各ロータリークラブが社会奉仕活動を開発し会員に奉仕の機会を与える、ロータリアンの指針として社会奉仕に対するロータリーの方針を明確にする為に次の原則があると言う事で、社会奉仕と言うのはロータリアンひとりひとりが「超我の奉仕」を実証する機会であると言う事です。「超我の奉仕」とは絵に描いた餅、いわゆる理論だけではなく実践の奉仕と言う事で、この「超我の奉仕」を行う機会として社会奉仕が考えられた。地域に住む人々の生活の質を高める為、公共の為に奉仕する事がロータリアン個人、又はロータリークラブにとっても社会的責務であると言う事です。この精神に立脚して各クラブに対し次のように推奨する。第一に地域社会における奉仕の機会を各クラブの会員が検討する。当クラブであれば長生園の方やのぎく園の方を三社大祭に招待したりよろず相談や蕪島清掃とかをやっていますが地域社会の奉仕の機会を増やす為にクラブ会員ひとりひとりが地域でどういう事をやれば社会奉仕になるかと色々考えてやる事が求められると言う事です。二番目として社会奉仕のプロジェクトを実施するにあたっては会員の得意とする職業上の能力とか趣味の力を生かすこととあり、先日のよろず相談などがまさしくそうで、自分の職業上の能力を生かして社会の為に貢献したと言う事です。三番目としてあらゆる社会奉仕がありますがクラブの立場とか力量を勘案してプロジェクトを始めて下さいと言う事で、自分たちのクラブの力以上のプロジェクトをする事はあまり勧められない、身の丈に合った社会奉仕をするようにと言う事です。四番目としてはロータリークラブが提唱するインターアクトクラブ等と密接に協力すると言う事で、当クラブでは蕪島清掃がこれにあたります。八高のインターアクトと協力して社会奉仕をすると言う事です。五番目として国際レベルのロータリープログラムと活動を通じて社会奉仕プロジェクトを強化する、言わばポリオの撲滅とかに参加することも国際奉仕の一環であると思います。六番目は社会奉仕プロジェクトの実行にあたっては地域社会にも参加を求めると言う事です。今はありませんが社会に参加を求めると社会奉仕と言え、クラブの草創期に「ゴミゼロ運動」を渡辺初代会長が始められたと言うようなお話を聞きますがこう言ったことも地域社会に広く参加を求めてやる社会奉仕であろうかと思えます。八番目として社会奉仕のプロジェクトが一般社会の人々に十分認められるようにすることと有りますが、今回のよろず相談なども新聞やラジオへの広報、先程よろずの記事が新聞に載っていたと言うお話もありましたが、こういったことも社会奉仕としては必要な事だろうと思えます。九番目として他の団体の共同参加を促進する触媒としての役割を果たす事と有りますが、要するに色々な団体との仲介役としてロータリーが力を合わせてより多くの社会奉仕をする事もロータリーの社会奉仕です。十番目としてもしそれが適当であれば公共組織などに継続中のプロジェクトを移譲してロータリーは次の新たなプロ

ジェクトに携わることが出来ると言え事ですが、これは震災の時の蕪島トイレがそうです。ロータリーとしてトイレを作って市に寄贈しました。このように社会奉仕としての指針、方針があります。こうして考えると南クラブも社会奉仕に関しては色々なプロジェクトをやっているのだなど、今さらながらに驚かされる訳です。次に社会奉仕に関する1923年の声明と言う事で、1923年国際大会で採択された社会奉仕の声明についてお話しします。これは23-34と言うものですが、これが改正され、改正されて今に続いています。ロータリーの社会奉仕はロータリアンのすべてが個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理想を適用すると言う事です。奉仕の理想と言うのは先ほど言ったように、利己的な欲求は最小限にとどめ、皆さんの為に最大利他に努める「超我の奉仕」ですが、これがロータリーの哲学になっています。多くのクラブが会員による奉仕に機会を与えるものとして色々な社会奉仕活動を進めてきている。次に掲げる諸原則は、ロータリアン及びロータリークラブの指針として、又ロータリーの方針を示すものである。一番目としてロータリーは基本的には一つの人生哲学である。どういう哲学かと言うと利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人の為に奉仕したいと言う感情の間の矛盾を和らげようとする人生哲学である。要は人間だれでも利己的な欲求は持ちます、お金持ちになりたい、上の地位を目指すとか社会的名声を得たいとかそういった利己的な欲求があるのは人間として当然あるべきであろうと思えます。かたや他人の為に奉仕したいと言う感情があるのも事実です。金持ちになりたいとかお金が欲しいと言う欲求、かたや人の為に奉仕して良い事をしたいと言う相矛盾する感情を持っているのが人間であり、相矛盾するものを和らげる一つとして「超我の奉仕」という哲学があると言う事になるのです。この「超我の奉仕」という哲学があって、要するに先ほど言ったように利己的欲求を最小限に抑えて人の為にもっとも大きくするという「超我の奉仕」ですがこれはR Iの第一標語になっている訳で、これを実践するのが「最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる」と言う実践的な倫理原則です。この実践倫理を実践しようと言うのが社会奉仕です。二番目に本来ロータリークラブは事業および専門職務に携わる人の代表と言う事で、以前であれば「一業種一人」と言うのがロータリーに入る条件だったのですが、今は増えています。ある意味事業及び専門職に携わる人々の代表としてロータリアンが存在する訳で、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れて次の四つの事を受け入れて実行する事を目指す人々の集まりである、すなわち第一に奉仕の理論が職業及び人生における成功と幸福の基礎であることを団体で学ぶことを目的としている。要するに自分の職業とか自分の私生活における成功とか幸福のベースになっている基礎を団体で学ぶことを目指している団体である。第二に自分たちの間においても地域社会においても奉仕の倫理を実際に団体で例を示す事を目的としている。要するに自分たちの私生活においても地域社会においても「超我の奉仕」を実際に実行して団体に示す

ことを目的とする。三番目に各個人が個人としてこの理論をそれぞれの職業及び日常生活に実践する事。四番目として個人として団体としてその実例を示す事、ロータリアンだけでなくロータリアン以外の人すべてが理論的にも実践的にもこれを受け入れるよう励ますことである。ロータリーでは「入りて学び、出でて奉仕せよ」という言葉がありますが、ロータリークラブに来て職業奉仕とか社会奉仕とかいろいろな奉仕を学んで、それをロータリーの外へ行って、ロータリーの小さな範囲に収まっているのではなく、自分の職業の団体とか地域社会のメンバーとして活躍されると思いますので、ロータリーで「超我の奉仕」とかを学び、クラブの中で社会奉仕として実践し「超

我の奉仕」が間違いではないのだ、これが人間にとっての幸福のベースになるのだと言う事を学び、ロータリークラブの外に出て、職業団体や地域の団体に入っていく周りの地域社会良くするように社会奉仕を皆さんと一緒にクラブを出た後も「超我の奉仕」を実践して行こう、こういう事を学ぶ機会としてロータリークラブが有り、その中に社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕など色々な奉仕が有り、それを社会に広めていく、そういう事によって日本もより良い世界になるだろうし、世界にとっても世界平和などに繋がっていくのだと思います。その為の一つとして「入りて学び、出でて奉仕せよ」という事を実践してもらいたいと思います。